

さくらの風

平成30年12月3日 No.8 発行
神戸市立歌敷山中学校

□下記の URL で学校の情報を発信しています。
http://www.2kobe-c.ed.jp/uts-ms/

12月行事予定



日 曜	行 事	SC	給 食			
			1年	2年	3年	特支
1 土	グラウンドゴルフ 神戸市ダンス発表会					
2 日						
3 月	選挙運動①		○	○	○	○
4 火	選挙運動②		○	○	○	×
5 水	選挙運動③		○	○	○	○
6 木	立会演説会・投票(6P+α)		○	○	○	○
7 金	56P:2年福祉学習 選挙結果発表 PTA運営委員会		○	○	○	○
8 土						
9 日						
10 月			○	○	○	○
11 火	3年午前中		○	○	×	×
12 水			○	○	○	○
13 木	6P:全校読書会		○	○	○	○
14 金	個別保護者会①		×	×	×	×
15 土						
16 日						
17 月	個別保護者会②		○	×	×	×
18 火	個別保護者会③		×	×	×	×
19 水	個別保護者会④		×	×	×	×
20 木			○	○	○	○
21 金	大掃除 新旧生徒会引継会		○	○	○	○
22 土						
23 日	(天皇誕生日)					
24 月						
25 火	終業式 生徒会退任式		×	×	×	×
26 水	冬季休業		-	-	-	-
27 木			-	-	-	-
28 金	仕事納め		-	-	-	-
29 土						
30 日						
31 月	大晦日					

1月のおもな行事予定



1日(火) 元日
7日(月) 始業式 全学年実力考査
給食なし弁当持参
8日(火) 委員長命・新生徒会任命
授業午前中 委員指導 過番編成
11日(金) 2年カルタ会
16日(水) 避難訓練
17日(木)・18日(金)・21日(月)
3年個別保護者会(3年午前中授業)
18日(金) 1年カルタ会
25日(金) 入学説明会

体が動けば、視点が動く 視点が動けば、心も動く

橋本 孝

昨年の「さくらの風」12月号では、美術室で前向きに黙々と作品づくりに取り組んでいる子供たちの様子を書かせてもらいました。それから1年、今年度定年退職をむかえる私の授業はあと4か月となりました。美術で子供たちに伝えたいのは、「ものを見て」「世界に触れて」「発見する」ことの喜びです。美術室の中でイメージを膨らませる時間も大切ですが、たまには街や自然の中を歩いてみてはどうでしょうか。学ぶ環境を変えることは、私たちの想像以上に子供たちの心や価値観にゆさぶりを与えると思います。

自転車で乗っていたり、歩いていたりと、せっかく何かを思い付いてもそのまま通り過ぎてしまいます。でも、足を止めることで、新しく見えてくる風景があると思います。そして、それを記憶に留める(メモにとる)と、そのメモに残したアイデアの種が後の作品につながります。外で得られる情報は、鮮度が高く、その場にいる人にしか体験できません。だから、そこから生み出されるアイデアはオリジナルなものになりやすいと思います。私は大学時代(もう40年前になりますが)阪急電車で通学していました。車内の床に映る、外の景色の影の形がいろいろと変化していくのが面白くてずっと見ていました。外に出て、自分だけの小さな発見を楽しんで欲しいです。

体が動けば、視点が動く 視点が動けば、心も動く
イラストレーターの林丈二さんの代表的な著書「マンホールのふた(日本篇)」は、日本全国の「マンホールのふた」を撮影してまとめたものですが、一体なぜマンホール？

林さんは「マンホールへの興味は磨耗した鉄の表面がキラリと光って綺麗だと感じたのが始まりです。そして、図書館でマンホールについて調べた結果『マンホールのふたに歴史が隠れている』という発見に興奮しましたね。そういう視点でマンホールを見ていくと、当然地方ごとに歴史がありますから、全国のマンホールを見て回らなければ」と(笑)

林さんはマンホールの他にも、「狛犬の尻尾」「駅の白線」「靴底にはさまった小石」など人が見向きもしないような、しかし林さんの手にかかると思わず笑ってしまような調査を続けています。「元来、僕は目立つものより、目立たないものが好きなんです。ポスターなど目立つものは、強い光を放っている印象を受けますが、その光はあえて気付かれるように誰かが操作していることが多くつまらない。僕が面白いと思うのは、目立たないけど弱い光を放っているもので、こちらから光に気付いてあげる喜びがあります。カメラを持ち歩き、シャッターを押すということは、何かに反応しているということです。

その時点では理解出来なくても、後で写真を見返してみると、その何かが自分の価値観につながる瞬間がある。そうやって自分のものの捉え方が明確になっていく楽しさが、街歩きにはあるのかな。」と述べられています。

体が動けば、視点が動く 視点が動けば、心も動く

音楽コンクール・文化発表会を終えて

●音楽コンクール

3年2組

中学校生活最後の音楽コンクール。今まで1度も成しえなかった入賞を目標に、練習に取り組んだ。2組というクラスで僕にできることは何か・・・ピアノ伴奏しかないと思ひ伴奏に立候補した。伴奏が決まってからは、毎日気持ちをこめて音楽コンクールの舞台を想像しながら練習に励んだ。合唱の練習では、始めはあまり声も出ず、まとまりもなく大丈夫かなと心配だったけれど、先生からの「大丈夫、大丈夫、きっとできる。思いっきりたのしもうよ。今は今しかできないことを思いっきりやるだけだよ。」の言葉を胸にクラス全員が一つとなり、練習を重ねた。そして不安から自信へと変わっていった。僕がやるべきことは、丁寧に弾くことを心がけて完璧な伴奏を目指すことだ。音楽コンクール当日、2組はトップバッターだった。とても緊張し不安になった。でも先生の応援で、安心して舞台に立つことができ、練習通りの伴奏をすることができた。僕はやりきった。達成感に満ちあふれた。結果、金賞を勝ち取ることができた。今まで一生懸命練習してきた本当に良かった。金賞をとることができたのは、クラスのみんな、パートナーだった指揮者、アドバイスをくださった先生がたのおかげだ。最後に、二組のみんな、ほんとうにありがとう。

●文化発表会

3年4組

「明日の文発がんばれよ。」それは、文化発表会の前日の夜、昨年度の生徒会執行部の先輩から受けた激励の電話でした。それまで張りつめていた重みが一瞬で晴れたような気持ちになって、先輩方から引き継いだ日のこと、不安や緊張の中で戸惑いながらも仲間を支えられ、これまでの生徒会活動に取り組んできた日々的一件事が一気にかけめぐりました。明日は今までやってきたことを十人で精一杯表現しよう、そう思うことができました。

ぼくが生徒会劇で演じた主人公はなかなか前に進めず思い悩む役でした。しかし、いろいろな人との関わり合いの中で未来に向かう希望を持ち、自信を取り戻していく、その過程が少しでもうまく伝わればいいなと思ひ練習を重ねました。そして主人公は、自分は決して一人ではなく、いつも支えてくれる仲間の存在に気づきます。それは僕自身とも重なりました。劇中の「いつもありがとな」は、台詞ではなく、等身大の僕の声です。今回の劇を通じて、たくさんの人に支えられていることを改めて感じました。照明や音響など裏方で劇を支えてくれた人、毎日指導して下さった先生方、気にかけて下さる先輩、いろいろと声をかけてくれた友達、たくさんの人とのつながりに心から感謝したいと思います。そして、台本を書いてくれたり、共に意見を出し合いながら、劇を創り上げてきた執行部のメンバーとの練習の日々は、決して忘れることのできない大切な宝物です。

トライやる・ウィークを終えて

●ありがとう

2年4組

「ありがとう」と言われるためには、自分はどうのような行動をすればいいのか。それを見つけることを目標として、僕はトライやる・ウィークに臨みました。お世話になったのは「ニチイケアセンター神戸霞ヶ丘」。学校からもあまり遠くありません。利用者の方も歌敷山中学校を卒業したという方が多く、昔の話をいろいろ教えていただきました。

初日は緊張して少し不安だったのですが、最終日には少しですが成長したなと感じることもできました。ボール遊びや風船バレーをよくしたのですが、利用者の方もとても元気で、こちらからも元気がもらえるような気がしました。利用者の生活の手助けをするというこの一週間の活動から、人助けの大切さや「ありがとう」と言ってもらえる喜びを学ぶことができて本当によかったです。

●裏側の仕事があるから

2年5組

私はトライやる・ウィークで「コープ垂水」にお世話になりました。最初は品出しとレジだからおもしろそうだなと思っていました。

実際大事だったのは、あいさつでした。私はてっきり裏方の仕事だと思っていたので、少し驚きました。あいさつの声があまり大きな声で言えず、元気がないと言われたので気をつけたいと思いました。仕事をしていると、一つひとつの商品の並べ方に意味があり、こんなところも工夫をしているのだ、と思うところが多くありました。廃棄商品の処分では、こんなに多くの物が処分されているのだと思うと、少し悲しかったです。試食販売では、売ると言うことがこんなに難しいのだと、初めて実感しました。品出しをしていると、店長や副店長が言っていた、「裏側の仕事があるから表側の仕事がある」ということを実感しました。

最後になりましたが、お忙しい中仕事を教えたり体験させていただいたりして、ありがとうございました。

●たくさん学んだトライやる

2年6組

私はトライやる・ウィークでたくさんのことを学びました。その中でも特に二つ、心に残っていることがあります。一つ目は、「仕事の大変さ」です。これは、「絵葉書資料館」での葉書の分類で強く感じました。整理する葉書の量はとても多く、初めて見た時はとても驚きました。そのため、作業は時間がかかり、苦勞も多かったですが、その分作業が終わったときの達成感も大きかったです。

二つ目は、「裏の仕事の大切さ」です。これは、「神戸ドールミュージアム」で体験した、検品や値札貼り、品出しで感じました。自分は今まで、お店の表側しか見ていなかったのだと強く思いました。今回体験したことで、ただ売るだけでなく、それまでの過程が大切だということを知ることができました。

私にとってこの5日間は、しんどくもあったけれど、たくさんのことを学ぶことができました。これからの生活に活かしていきたいです。

表彰の記録

◀家庭科部▶

○第62回神戸市中学校技術・家庭科作品展
入 選

◀ソフトテニス部▶

○ソフトテニス垂水区中学校研修大会
第3位 1年

第62回日本学生科学賞 兵庫県コンクール

読売新聞社賞 3年

第49回「友情をつなぐ絵画作品展」

入 選 3年
2年
1年

第70回兵庫県幼・小・中造形教育展

特 選 3年
入 選 3年
2年
1年

第40回兵庫県中学校総合文化祭書写部門

特 選 3年
入 選 2年 ・1年

食べたいな!こんな給食メニュー(募集)

優良賞 2年